

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25年 10月 15日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100421		
法人名	J T S株式会社		
事業所名	グループホーム樹		
所在地	広島市安佐北区深川一丁目42-23 (電話) (082) 842-1500		
自己評価作成日	平成25年9月24日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490100421-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490100421-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成25年10月8日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

施設は、田んぼや畑、山々の様子で四季折々の風景が楽しめる自然に囲まれた住宅街に立地しています。近隣にはスーパーもあり、散歩を兼ねて買い物に行かれる機会も多く、楽しみの一つとなっています。季節毎の行事や活動では、巻き寿司やおはぎなどの料理作りや野菜や花を育てたりと、利用者様が役割を持ち、お互いに助け合いながら積極的に取り組み、楽しみややりがいを感じて頂いています。家族や地域との繋がりを大切に、たくさんの笑顔溢れる施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者と職員がゆったりと話をされている様子が伺えるが、現状に満足せずに、今以上にゆとりを持ち利用者と共に笑顔で過ごす時間を大切にしたいと考えられている。ユニット間の行き来は自由で、隣のユニットへ遊びに行かれたり、利用者同士が自然に交流され、行動範囲の広がりにつながっている。中庭で、お茶を飲んだり、バーベキューをしたり、楽しみのある暮らしとなるよう支援されている。また、毎日のラジオ体操、滑車やリハビリマシンを使い体を動かされ、身体機能の維持に努められている。初めての家族会は敬老会と合わせて開催し、沢山の家族が参加され、家族同士が交流され、家族と職員のつながりが深まり、良好な関係が築かれるよう取り組まれている。今後は、地域の方が気軽に立ち寄って頂けるよう、地域に開かれたホームとしての役割を考えられている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	常に意識するよう、目につきやすい玄関に張り出している。勉強会や会議時にも、理念を再確認するよう心掛けている。	事業所の理念は、開設時の法人理念を基にして、職員全員の声を聴きながら作成されている。毎月の勉強会や会議などの機会に、理念に沿ったケア提供に向けて話し合い共有し、実践できるように努められている。	今後は、年度末に、職員全員で理念を振り返り、実践するための具体的な目標や方法について確認し、日々のケアの質の向上に向けて取り組まれることが望まれます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入。回覧等で行事や活動の案内により町内清掃、イベントに参加させて頂いている。又、散歩時は畑作業の方や犬の散歩の方と挨拶や会話を交わし、交流の機会を大切にしている。	利用者と一緒に盆踊りへ参加や、地域の清掃へ職員が参加されている。避難訓練の時には、地域の人が参加されたり、大学生の体験学習の受け入れなど、開設2年目で徐々に地域とのつながりが深まりつつある。近隣の幼稚園や小学校からの訪問、子供神輿が立ち寄るなど、地域の子供たちとの交流も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	代表自ら認知症サポーター養成講座の講師を担い、認知症の理解を深めている。又、運営推進会議の場や地域行事、買い物時に、実際に支援の様子を見てもらい理解や協力を求めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2カ月毎の会議では、利用状況、取り組み報告や地域からの情報収集も行っている。又、消防署員の参加も得て、防災に関するアドバイスも頂いている。	利用者、家族、自治会役員、行政職員、包括支援センター職員が参加され、事業所からの報告に終わるだけでなく、参加者から質問や意見が活発に出され、運営に反映されている。また、消防署員を招き、避難訓練の助言が得られている。	家族に、今以上に事業所の理解を深めて頂き、家族からの意見や要望をサービス向上に活かしてもらいたい。参加家族が固定化しないように、引き続き、運営推進会議への参加の声かけと議事録の郵送や報告など、情報の共有を図る取り組みに期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	介護保険やサービス内容の疑問点の問い合わせや、運営推進会議の報告と出た質問にも助言を頂いている。苦情や事故の状況も必要に応じて報告している。	毎回、運営推進会議へ行政職員と包括支援センター職員が参加されている。事業所の取り組みを良く理解され、良好な関係が築かれ、情報や問題点が共有されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	勉強会において、身体拘束や行動制限となる具体的な行為や精神的な影響などを学び拘束をしないケアを実践している。	事業所の前に踏切があり、家族と相談され、安全面から施錠されている。職員は、利用者が出て行かれる気配を感じたら、さりげなく声をかけ一緒に歩いてくなど、自由な暮らしの支援に取り組まれている。研修を通し、身体拘束をしないケアについての意識統一が図られ、言葉遣いなど、そのつど注意されている。	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	勉強会、会議などで学び、考える機会をもち、利用者の日頃の様子や心身の状態をしっかりと観察、報告し合い見過ごされる事が無いよう防止に努めている。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	成年後見人制度や自立支援事業の情報の収集や研修などで知識を養い、家族からの申し出や状態を見て、必要があればパンフレットを配布したり、地域包括とも連携し支援している。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約の際は、重要事項説明書、契約書の分かりやすい言葉や表現を心掛け、同時に不明な点や疑問点を確認しながら説明し、理解いただいている。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	玄関に意見箱を設置したり、運営推進会議で意見や要望を伺い、事業所会議等で話し合っている。又、日頃より電話や面会などで家族との連絡を密にし、信頼関係を深めるよう努めている。	面会や運営推進会議の時に、家族からの意見や要望を聞くように努められている。今回は初めての家族会で、家族からの意見や要望は、特に出なかったが、今後は、話しやすい環境づくりを心がけたいと考えられている。家族には、毎月ふくろう通信と生活の様子を伝える手紙を送られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	各ユニット毎にリーダーが中心となり会議の場を持ち職員の意見を出し、全体の事業所会議や必要時には法人内の会議でも検討している。	合同の会議やユニット会議など、職員は活発な意見交換が行われている。職員の意見や提案を聞く機会として、年1回、法人代表との自己評価の面談も行われている。参加できない職員には、前もって意見を聞いたり、職員用の意見箱も置かれ、意見を出しやすい体制が整えられている。	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	職員が向上心を持って働けるよう、自己評価表や目標の設定をし、実績、評価につながるよう相談助言している。		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	法人内外の研修の受講の呼びかけや、他事業所間の現場研修により、処遇の見直しや個々のスキルアップ向上を目指している。食事		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	介護支援専門員連絡会や地域密着型サービス連絡会に参加したり、他事業所への現場研修の実施により交流も図れている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	利用開始前の面談により、生活環境や習慣等出来るだけ多くの情報を収集、把握し、本人の状態に合わせながら要望を探っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>困ったり不安に思っておられる事を、安心して話して頂けるよう、声掛けや雰囲気気に気を配りながら何うようにしている</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人や家族の思いを尊重し、状況を見極めながら必要なサービスの提案させて頂いたり、他事業所の情報も合せてお知らせしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>日常生活の中で食事の準備や洗濯等利用者が出来る事は一緒に行ったり、買い物や行事などでは、役割を持ちながらお互いに協力し合う事で達成感や喜びを感じて頂いている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>敬老会に合わせて、初めての家族会を実施し、殆どどの家族の参加を頂き、一緒に料理作りに挑戦した。家族からご本人へ感謝のメッセージを披露されたりと家族の絆を深めて頂く機会を持てるよう支援している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>入居後もいきいきサロンや地域の催しに参加され、地域の方から声を掛けて頂く等、馴染みの関係が継続出来る様支援している。</p>	<p>送迎は地域の人の協力があり、入居前から参加されている、いきいきサロンへ行かれたり、地域の敬老会への参加や友人が訪ねてこられるなど、馴染みの関係が継続されている。家族と外食や自宅に立ち寄られたり、家族会と敬老会を合わせて開き、沢山の家族が参加され、関係が途切れないよう支援に努められている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士が声を掛け合い、食事前後の手伝いや洗濯物など役割として実施して下さる。職員も利用者同士が会話や交流しやすいような雰囲気作りを心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	在宅復帰や入院中の方等の面会や訪問にて様子を伺ったり、家族との連絡も取りながら、継続した相談、支援に努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話や様子から思いを察したり、意思疎通の困難な方は、家族からの性格や生活歴等の情報をもとに、本人本位の支援に努めている。	職員は、日頃から利用者にかかわる時間を大切にされ、一人ひとりの思いや意向など、日々の寄り添いや会話の中からもみ取るように努められている。言葉でうまく表現できない利用者であっても、表情や日々の行動、また生活歴などを家族からきめ細かく聞き、個別性を大切にしたいその人らしい生活を支援されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービスの経過等の把握に努めている。	アセスメントツールを用い、本人、家族とも積極的にコミュニケーションを図ったり、居宅や病院等の情報をもとに把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活や身体状況を観察しながら生活記録への記載や、毎日の申し送りにて気づきの報告、伝達簿にて全職員に周知させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	出来るだけ話しやすい環境にて、本人、家族の思いや意向を聞き取り、アセスメントによる現状把握、課題分析しながら、看護師など関係者とともに検討しプラン作成している。又、3か月毎のモニタリングにて現状に即した計画の見直しをしている。	利用者、家族が参加しやすいように、できるだけ面会時にサービス担当者会議が開かれている。医療機関や職員の意見も含め、利用者、家族の意見や要望を反映した介護計画が作成されている。毎月の会議で職員が話し合い検討され、3ヶ月ごとにモニタリングが行われている。	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	日々の生活状況やケアの実践を個別に記入している。毎朝、夕の申し送り時に気付きを報告し合い、情報を共有している。又、必要に応じてミニカンファレンスを開き柔軟な対応を心掛けている。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	本人との関わりや、家族の面会時などの対話の中で出てきたニーズに対して、より良い支援が出来るよう医療機関や他事業所に相談させて頂いている。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	地域の行事に参加させて頂いたりボランティアの方の来園を楽しみにされている。又、ホームでの野菜作りやおはぎ作りでは、近隣のスーパーに買い物に行き、作り方の指導を頂いたり役割のある生き生きとした生活を支援している。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	入居時に本人や家族の希望により、かかりつけ医を選択していただき、24時間体制で支援できるよう協力頂いている。かかりつけ医の往診は2週間に1度、眼科は2か月に1度、必要に応じて歯科の往診も行っている。	以前は、希望される医療機関で受診されていたが、今は全員が協力医療機関をかかりつけ医とされている。受診結果は、家族へ報告し、情報の共有が図られている。日頃の利用者の健康管理は、法人内の看護職が行い、緊急時かかりつけ医へ連絡し、適切な医療が受けられるよう24時間の協力体制が整えられている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者の日頃の状態をしっかりと把握し、状態の変化や気づきを職場内の看護師に報告、相談し、異常の早期発見と適切な受診や往診、看護を受けられる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、面会やお電話にて状態の確認や情報の収集と、退院に向けて受け入れ態勢を整えるよう、かかりつけ医に相談したり、看護師や相談員と連携し、安心して治療を受けていただけるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に看取りについての方針の説明と提示をさせて頂いているが、日々の状況が変化の中で、その時々本人や家族の意向の確認や主治医に相談しながら、本人、家族が望まれる生活を支援し、本人らしい最後を迎えて頂けるよう努力している。	入居時に、事業所で対応できることを説明し、同意を得ている。本人、家族の意向に添い、重度化や終末期に向けた対応を行う方針であるが、今のところ事業所での看取りの経験はない。看取りの研修を通して、職員の意識統一が図られている。	職員間での知識の共有と不安を取り除き、看取りケアに取り組むためにも、重度化、終末期に対するマニュアルの作成と体制づくりに取り組まれることが望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	消防署の協力を得て救命講習の実施や急変時や事故発生時の対応などの勉強会を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	運営推進会議に消防署員の出席を頂き、災害対策についての情報、アドバイスを頂いたり、地域の方と連携した避難訓練の実施や災害時の地域との協定書も交わしている。	年2回の訓練で地域住民が10人参加されたときは、具体的に玄関から外への利用者の誘導と見守りを住民へお願いし、昼間の避難訓練を実施された。11月には、夜間想定しての訓練を予定されている。法人間の応援だけでなく、自治会、近隣の福祉施設と災害時の協定書がかわされ協力体制が築かれている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	認知症ケアの勉強会のなかでも、常に人格の尊重を基本とした対応を学びながら、人生の先輩として敬いの気持ちを持って日々の業務にあたっている。	「一人ひとりの尊厳を守る」理念の実現に向け、職員全員で自然な声かけやさりげないケアに努められている。言葉づかいに気を付け、職員同士が互いに確認しあえる環境が出来ている。プライバシーが保てるように、利用者が手作りされた暖簾が居室や浴室入口にかけられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常会話や行動から、本人の思いを聞き逃さず察し、意思を尊重するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者の様子や状態に合わせ、可能な限り利用者の要望に応じた一日を過ごして頂くよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者の身だしなみの習慣やこだわりを大切に、その人らしさが継続出来るよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	家庭的な雰囲気を大切に、献立や味つけ等の会話をしながら食事の配膳準備や片づけ等、個々に出来る事を協力し合い関わって頂いている。	法人から届く食事は、栄養バランスに配慮された献立である。外食や行事食、中庭でのお茶やバーベキュー、やきそばなど、食事を楽しむ工夫がされている。一人ひとりの力を発揮できるように、おはぎ、干し柿作りなどを手伝ってもらっている。職員は、見守りと介助に専念されていて、一緒に食事はされていない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	毎日、全利用者の食事、水分量を記録し、健康状態への影響がないよう摂取量を把握している。摂取量の確保が困難な時は、嗜好を聞いたり、こまめに摂取して頂くなどの工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを実施し、チェック項目として記録、徹底されており、利用者も習慣となっておられる。身体の重度化により口腔ケアが困難な方は、協力歯科医の指導を頂きながら清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表をにより，一人ひとりの排泄パターンを探り，自尊心を傷つけない様にトイレ誘導や声掛けによりトイレでの排泄や気持ち良い排泄習慣を支援するよう心掛けている。	一人ひとりの様子から、排泄習慣を把握し、声かけや見守りで、自立に向けさり気なくトイレ誘導に努められている。身体状況に応じては、2人介助で、トイレでの排泄を大切にされたケアが行われている。パットの枚数が少なくなった利用者も見られる。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便チェック表により全利用者の排便状況を把握し、個々の排便習慣に応じ下剤の調整と水分量や適度な運動などで便秘を予防している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	本人の希望や、今までの生活習慣をもとに援助させて頂いている。その都度声を掛けさせて頂き本人の意思を確認し、気持ちよく入って頂けるよう心掛けている。	日曜日を除き、日中の入浴を基本としているが、できるだけ一人ひとりの希望や体調に応じて、2人介助で湯船に入るなど、柔軟な支援が行われている。毎日の入浴も可能で、ゆっくりと落ち着いて話が聞けるように心がけられている。現在は、利用者全員が入浴を楽しみにされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中、散歩や体操などの活動を取り入れ、適度な昼寝や休息を促し、メリハリのある生活により夜間の安眠に繋がるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりが内服されている薬の効能書きをカルテに保管してあり、いつでも確認できるようにしてある。服薬援助は複数の職員が配薬の確認をし、与薬者は名前、日付、時間を声に出して伝え内服してもらう様に徹底している。又、薬についての疑問点などはその都度、薬剤師に確認したり、薬剤師による勉強会を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	毎月、季節に応じた行事を、当日のみならず、一緒に考えながら計画し、準備に関わる事で楽しみや役割を持って頂くよう支援している。野菜作りや料理では積極的に作り方等指導して下さり活躍される機会が得られている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的には希望により、散歩に出掛けるよう心掛けている。本人や家族との会話の中で希望が聞かれたら、可能な限り実施に向けて検討している。又、地域の行事には、送迎など近隣の方々の協力も得て参加させて頂いている。	散歩、お花見、ドライブ、買い物など、季節を肌で感じられるように、日常的に戸外へ出かけられている。いきいきサロンや地元の敬老会への参加など、一人ひとりの希望に添って出かけ、外出を楽しまれている。戸外に出かけるだけでなく、毎日のラジオ体操、滑車やリハビリマシンを使い、体を動かされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	近隣スーパーへの買い物やドライブなどでは、利用者の力に応じて、ご自分でお金を出して頂き、買い物が出来る喜びや支払をする自信を持って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>利用者の希望に応じて施設の電話を使っていたり、大切な家族を思い書かれた手紙が、きちんと届くように宛名書きをお手伝いしたり、届いた手紙を希望があれば読んで差し上げるなど思いを伝えあう支援をさせて頂いている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>中庭を囲む両ユニットのリビングのカーテンは、ロールアップ式でひざしの遮断以外は全開にし、花壇の花やその日の天候がしっかりと見渡せる様配慮し、季節や時を感じて頂いている。室内の換気も十分にいき、室温調整に配慮している。</p>	<p>清掃が行き届き、自然な光が差し込むリビングからは、中庭が見渡せ、落ち着いた家庭的な雰囲気の生活空間である。壁には手作りのカレンダーや季節ごとの利用者の作品、俳句などが飾られ、温かい感じの居場所となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>気の合う利用者同士が楽しく談話されたり、一緒に作業をされる。又、一人で、ソファで本を読まれたり、TVを鑑賞されたりと自由に過ごされている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>本人の馴染みの家具を持参して頂いたり、ベットが使い慣れない方には、畳の空間としたり、お孫さんの写真や思い出の品などを飾り、落ち着かれる部屋となるよう工夫している。</p>	<p>利用者の今までの生活環境に近い、居室づくりを心がけ、畳に変えられたり、使い慣れた家具、テレビ、写真や小物など好みの物が持ち込まれ、居心地よく過ごせるように配慮されている。居室入口には、利用者が好みの柄で手作りされた暖簾がかけられ、一人ひとりがわが家のように安心して生活されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>フロアに日課表を張り出し、確認し、行動しやすい様に配慮している。又、広めのリビングとなっており、家事や作業などを安全に行って頂くようテーブルやソファなどの配置にも配慮している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム樹

作成日 平成25年11月14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	Ⅱ19	前回初家族会実施するも、その後継続した家族同士の意見交換や思いなど交わす機会を持つことが出来ていない	家族同士の繋がりから認知症の理解が深め合う	家族同士の交流の場の提供。	
2				①4月の花見参加	～4月
3				②各行事の参加への声掛けをその都度行う。	随時
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。